

生保 2 (問題)

【 第 I 部 】

問題 1. 次の (1) ~ (6) の各問に答えなさい。

(1) ~ (4) 各 5 点、(5) 4 点、(6) 6 点 (計 30 点)

- (1) 有価証券評価損の計上に関し、「金融商品に関する会計基準」および「金融商品会計に関する実務指針」等の内容を説明した以下の文章について、(a) ~ (e) の空欄に当てはまる適切な語句または数値を記入しなさい。(5 点)

□(a)□以外の有価証券は原則として、時価(市場価格または合理的に算定された価額を指す。以下本問において同じ。)で評価されないか、時価で評価されても評価差額は損益計算書には計上されない。しかし、時価のある有価証券について時価が著しく下落したときは、回復する見込みがあると認められる場合を除いて、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当期の損失として損益計算書上で処理(「減損処理」)する。

帳簿価額に対する時価の下落率が□(b)□%程度以上の場合は、回復可能性についての合理的な反証がなければ、「著しい下落」に該当するものとされる。なお、外貨建有価証券の場合は、「著しい下落」は□(c)□通貨ベースでの価格変動により判定する。

ここで、「回復する見込みがある」と認められるのは、株式の場合は、時価の下落が一時的なものであり、期末評価時点以降おおむね□(d)□年以内に時価が取得原価にほぼ近い水準に回復する見込みがあることを合理的な根拠をもって予測できる場合をいう。債券の場合は、単に市場金利の大幅な上昇により時価が著しく下落した場合であっても、いずれ時価の下落が解消すると見込まれるときは、回復の可能性があるものと認められるが、□(e)□リスクの増大を起因とする場合は、回復する見込みがあるとは認められない。

※(a)は、有価証券の保有目的区分のうち適切なものを記入すること。

(2) リスク戦略の構成要素に関し、IAA の「保険会社の ERM の数理的側面」に基づき説明した以下の文章について、(a) ~ (e) の空欄に当てはまる適切な語句を記入しなさい。(5 点)

○リスク

リスク の 1 つの適切な定義例として、次が挙げられる。

企業が、事業目的達成のために進んで受け入れるリスクの統合的な水準と種類を明文化したもので、利益、資本、リスク尺度、流動性およびその他の関連する尺度について表現された定量的尺度に加え、定性的な記述が含まれる。

○リスク

リスク とは、決められたリスク に照らして、エクスポージャーをモニタリングするのに用いられる典型的なリスクの尺度である。実際には、リスク は、ハイレベル（俯瞰的）なリスク ・ステートメントを行動に結び付け、計測、モニタリングすることができる尺度に細分化していくことを可能にする。リスク の設定は、リスクを実効的に管理するための適切な報告とモニタリングのプロセス構築を確実なものとする助けとなる。したがって、リスク は明確に規定され、かつ計測しやすいことが望ましい。

○リスク

リスク は、各リスク種類に対する企業レベルのリスク やリスク を、 におけるモニタリングの尺度に転換するものである。整合性の取れたリスク と企業レベルのリスク は、リスク目標を実現し、 リターンを最大化するのに役立つ。

は、リスク指標がグループのリスク の枠組みの中で設定された限度の枠内で運営されるよう期待されることがある。よって、 がこれらを遵守するための測定基準が容易に利用できなくてはならない。このため、正確な計測の代用物を開発しなければならないことがある（そして、それらの代用物の妥当性を検証し、その信頼性が失われるような状況についてコミュニケーションを行わなければならない）。

- (3) 予定事業費枠について、以下の (a) ~ (e) の空欄に当てはまる適切な語句または数値を記入しなさい。ただし、(b) ~ (e) の計算過程においては端数処理を行わず、解答においては円未満を四捨五入して円単位とすること。(5点)

【予定事業費枠の考え方】

蔵銀枠	予定新契約費の全てを契約初年度に費消し、これを全保険期間にわたって償却すると考えて計算した予定事業費枠である。
純保枠	予定事業費枠を完全に平準化した計算方式である。
利源枠	予定新契約費のうち一定割合を契約初年度に費消し、それを一定期間で償却すると考えて計算した予定事業費枠である。なお、金融庁に報告する利源分析では (a) 式の予定事業費枠が採用されている。

【対象保険契約に関するデータ】

- ・ 終身保険、加入年齢 x 歳、保険料払込期間 m 年
- ・ 保険金額 1,000 万円
- ・ 年払営業保険料 40 万円
- ・ 予定新契約費 α (新契約時のみ) : 保険金額 1 に対して 0.03
- ・ 予定新契約費 δ (保険料払込期間中) : 営業保険料 1 に対して 0.02
- ・ 予定維持費 γ (毎年) : 保険金額 1 に対して 0.003
- ・ 予定集金費 β (保険料払込期間中) : 営業保険料 1 に対して 0.04
- ・ チルメル歩合は予定新契約費 α に等しいものとする
- ・ $\alpha/\ddot{a}_{x:\overline{m}|}$: 保険金額 1 に対して 0.0018
- ・ $\alpha/\ddot{a}_{x:\overline{5}|}$: 保険金額 1 に対して 0.0067
- ・ 貯蓄保険料 (平準純保険料式) は第 1 保険年度・第 2 保険年度とも 22 万円

○上記に基づき計算した予定事業費枠の額は次のとおり。

- 蔵銀枠 (第 1 保険年度) : (b) 円
 純保枠 : (c) 円
 利源枠 (第 1 保険年度) : (d) 円
 利源枠 (第 2 保険年度) : (e) 円

- (4) 生命保険会社の保険計理人の実務基準（以下、「実務基準」）に関する以下の文章について、(a)～(e) の空欄に当てはまる適切な語句を記入しなさい。(5点)

1号収支分析(※1)の結果、責任準備金不足相当額(※2)が発生した場合において、保険計理人は、以下の経営政策の変更により、責任準備金不足相当額の一部または全部を積み立てなくてもよいことを、意見書に示すことができる。ただし、これらの経営政策の変更は、ただちに行われるものでなくてはならない。

- (ア) 一部または全部の保険種類の の引き下げ
- (イ) 実現可能と判断できる の抑制
- (ウ) の見直し
- (エ) 一部または全部の保険種類の の抑制
- (オ) 今後締結する保険契約の の引き上げ

※1 実務基準第9条第2項第2号に規定する、責任準備金積立の確認に係る将来収支分析

※2 1号収支分析の結果、保険計理人が現状の責任準備金では不足していると判断した額

[解答の制限字数について]

- ・ 解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
- ・ 制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

(5) 2025 年 4 月 1 日に締結した生命保険契約で、保険料積立金を積み立てる契約のうち、標準責任準備金の対象外となる契約を 4 つ列挙しなさい（解答欄（a）～（d））。（解答の制限字数はそれぞれ 150 字）（4 点）

[解答の制限字数について]

- ・ 解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
- ・ 制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

(6) 経済価値ベースのソルベンシー規制における「三つの柱」について、第一の柱～第三の柱のそれぞれの内容を簡潔に説明しなさい(解答欄(a)～(c))。(解答の制限字数はそれぞれ300字)
(6点)

問題 2. 次の (1)、(2) の各問に答えなさい。

各 10 点 (計 20 点)

[解答の制限字数について]

- ・ 解答にあたっては、問題文 (解答欄) に記載されている制限字数に留意すること。
- ・ 制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

(1) 生命保険会計の意義および特徴について簡潔に説明しなさい。(解答の制限字数は 1000 字)
(10 点)

[解答の制限字数について]

- ・ 解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
- ・ 制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

(2) 契約者配当財源（ここでは決算に基づく配当可能利益のうち、実際に配当として分配する額のことを指すこととする）の決定要因について、次の観点に沿って簡潔に説明しなさい。（解答の制限字数は1000字）（10点）

- ・ 責任準備金の評価方法
- ・ ソルベンシー確保
- ・ 契約者配当の安定性維持・向上
- ・ 通常配当と特別配当

【 第 II 部 】

問題 3. 次の (1)、(2) の各問に答えなさい。

各 25 点 (計 50 点)

[解答の制限字数について]

- ・ 解答にあたっては、問題文 (解答欄) に記載されている制限字数に留意すること。
- ・ 制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

(1) 次の (ア) ~ (ウ) の各問に答えなさい。(計 25 点)

あなたは次のような状況にある生命保険会社のアクチュアリーである。

<所属会社の状況>

- ・ 会社設立からの経過年数が長く、これまで営業職員チャネルを通じて有配当の平準払円建保険 (定期保険や終身保険等。以下、「既存商品」) を販売してきた。
- ・ 近年、新たにインターネットチャネルを設け、無配当の平準払円建積立保険 (以下、「新商品」) を発売した。新商品の予定利率は、他社との競合を考慮し競争的な水準に設定しているが、保険期間を通じて一定である。
- ・ 新商品の発売当初に大規模な Web CM を行った結果、多くの新契約を獲得した。
- ・ この新商品の契約者に対し、既存の営業職員チャネルからもアプローチを行い、既存商品の販売拡大にもつなげる計画である。
- ・ この新商品の発売にあたり、区分経理における資産区分・商品区分を新たに設定し、当該商品区分に全区分から出資を行った。

(ア) 一般論としての 内部管理会計の意義および必要性 について、現行法定会計の特徴と限界に触れつつ、簡潔に説明しなさい。(解答の制限字数は 500 字) (5 点)

(イ) 上記新商品が属する商品区分に関し、当該商品 発売当初の費差損益および責任準備金関係損益 (金融庁提出用の利源分析手法における利源) の状況についてそれぞれ簡潔に説明しなさい。なお、問題文に記載していない事象 (金融環境や顧客行動の急激な変化等) を考慮する必要はない。(解答の制限字数はそれぞれ 250 字) (4 点)

(ウ) 上記新商品の 収益管理に際して留意すべき事項 を挙げ、アクチュアリーとして所見を述べなさい。なお、解答にあたっては次の観点を含めること。(解答の制限字数は 300 字) (16 点)

- A. 上記新商品を区分経理する意義
- B. 損益把握上の留意点
- C. チャネル・商品間の相乗効果の評価

[解答の制限字数について]

- ・ 解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
- ・ 制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

(2) ストレストストに関して、次の (ア)、(イ) の各問に答えなさい。(計 25 点)

(ア) 生命保険会社が統合的リスク管理の一環として行うストレストストの意義・目的について簡潔に説明しなさい。(解答の制限字数は 500 字) (4 点)

(イ) あなたの所属する生命保険会社は、長らく次の 3 つの生命保険商品を販売している。いずれの商品も毎年一定水準の新契約を獲得しており、保有契約量は概ね定常状態になっている。

- ・ 平準払終身医療保険 (円貨建)
- ・ 一時払終身保険 (円貨建・外貨建)
- ・ 10 年更新型平準払定期保険 (円貨建)

このような会社におけるストレストストの実施に際して留意すべき事項を挙げ、アクチュアリーとして所見を述べなさい。なお、解答にあたっては次の観点を含めること。(解答の制限字数は 3500 字) (21 点)

- A. 想定される主要リスク (全社的な観点も含めること)
- B. ストレスシナリオの設定
- C. テスト結果の活用方法

以 上